

# 里山保全へ熱い議論

## 千葉市で シンポ 都市住民ら活動報告

【千葉】「里山と生命(いのち)のいきわい」をテーマにした第5回里山シンポジウムが18日、千葉市若葉区の東京情報大学で開かれた。450人の活動家や市民、研究者らが参加。活動事例の報告、講演、パネル討論などを行った。主催は同シンポジウム実行委員会、県、ちば里山センターなど。里山の再生や里山を資源にした多彩な活動を行っている都市住民が22の分科会で報告し、里山の危機をどう乗り切るかを議論した。

記念講演で岩槻邦男東 ものを保全していくため 大名警教授は「地球その一には日本人の持つ里山と



シンポジウムでは、里山の危機をどう乗り切るかを話し合った

いうコンセプトを大事にしたい」と強調した。堂本暁子知事も参加し、「人間の都合だけでなく、植物、動物の自然を守ることで対応できないか。日本の原風景の里山を歴史的遺産として大事にしたい」と語った。米国生まれで日本の里山研究20年のケビン・シヨート東京情報大学環境情報科教授は「里山を守るのに最も大切なのはボランティア活動だが、これは里山の1割にも満たない。多くの県民は里山について意識がない。いまの日本では、自然を守る

ることが自分の生活を守ることにならない。英国のように国の政策が必要だ」と提言した。千葉市の元行政マン、藤倉清一氏は「ボランティア、地権者、行政の三者の参加が必要になる。行政はその仲立ちをす

る。地権者の合意を得られなければ行えない」と経験を語った。森林に関心を持つ女性グループを立ち上げた芝山町の農林業家・手島芳枝さんは「林家は山に貯金すると教わって嫁いだが、今は様変わりした」と林業家の実情を話した。活動報告では我孫子市、八千代市、千葉市などで里山、谷津田の再生復元に取り組む事例、松戸市の川の再生活動、いすみの里海とつながる活動などが発表された。都市部の里山や緑地が道

特産キウイで 今年もワイン 東京都三鷹市 【東京むさし】三鷹市の特産品キウイフルーツを使ったワインが15日、JA東京むさし三鷹支店集出荷場に入荷した。三鷹市果樹組合キウイフルーツ協会が1月に市内産キウイフルーツを山梨県大月市の笹一酒造(株)に出荷し、約8000本を醸造した。ワインは今年で22



木清一会長は「青くて大玉なのがこの地域の梅の特徴だ。イベントなどを通じ、梅干しなどの加工品の知名度も高めていき場など

# 早くも梅初もぎ

JAかながわ 西湘管内 好天続き玉ぞろい上々



梅を丁寧に収穫する生産者 (19日、神奈川県小田原市で)

【神奈川・西湘】JAかながわ 関東地区では一番早い梅の初もぎが始まった。生

産者は丸々と育った梅を丁寧に収穫した。本格的な集荷は22日から始まり、梅酒用の「白加賀」が6月上旬まで、梅干し用の「十郎」が7月上旬まで続く。今年は天候に恵まれ、開花の時期は順調。玉ぞろいが良く、高品質の梅となった。小田原市梅研究会の柏

厳かに花まつり 埼玉県小鹿野町 秩父礼所の法性寺 【埼玉・ちちぶ】小鹿野町の秩父礼所32番・法性寺でこのほど、恒例の花まつりが開かれた。白装束をまとった巡礼者や観光客、地元の人たちでにぎわった。秩父地方に点在する観世音菩薩をまつった寺の一つ。花まつりでは寺に花をまき供養した。秩父礼所34カ所は坂東

33カ所、 わせ、口 えられ、 年に「元 われる。 今年「帳」の「中開帳 1度の 恩総開帳 ら7月10 いる。 朝市 苗の 東京

マイナーカードの状態を確認する梅さん(茨城県茨城町で)

更替するマイナーカードは

東京